



天然記念物

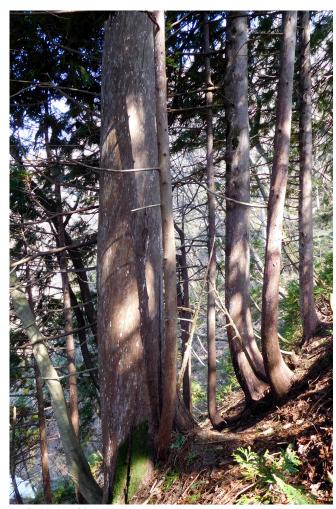
13. 宝立山アテ天然林

- ■指定年月日 平成 18 年 4 月 7 日 (2006)
- ■所 在 地 若山町南山テ40・洲巻ソ17 (ほか輪島市内2箇所)

県木として知られるアテの呼び名は、植物分類 上ではヒノキアスナロの地方名である。この樹種 はヒノキ科のアスナロ属に含まれるアスナロの変 種とされる。

アテは、北海道の渡島半島以南に分布し、太平洋側では北関東、日本海側では能登半島にかけて分布し、珠洲市と輪島市にかけて広がる宝立山系の奥山に、伏条更新や実生による天然林と考えられる植生が認められる。

珠洲市側の林分は、宝立山の山頂に近い急峻な北斜面の岩盤上にあって、樹高 13 ~ 14m、幹周 100 ~ 125cm を測るアテが確認できる。混成する樹種は冷温帯域の急峻斜面の植生を反映している



洲巻のアテ林

- ■指 定 面 積 南山 3,966㎡ 洲巻約 1,000㎡
- ■所有者 南山区・洲巻区

(若山町南山)。

もう一ヶ所は、宝立山に近く若山町洲巻の集落から比較的近い「水守り山」として大事に扱われてきた山中に、樹高 20m、幹周 236cm を測るアテを最大に小林分が見られる。

これらのアテの樹幹や樹皮は多様で、直径階別の本数構成からみても人工林とは考え難い。「宝立山アテ天然林」はアテ天然分布の南限地として極めて貴重である。